



4 6期生が合格体験を語る —「先輩と語る会」—

卒業式を終えた3年生(46期生)の有志が、1・2年生に大学受験までの体験を語る「先輩と語る会」が3月16日に行われました。80名余りが自らの受験体験を語って

くれました。
1年生は6限、2年生は7限に実施して、46期生が各教室に



10名程度割り振られました。文理選択を終えた1年生は、文理それぞれ分かれて、体験談を聞きました。受験勉強を進めるうえで苦労したことや具体的な勉強方法など、次々に質問が出ていました。

終了後、1・2年生からは、「先輩に直接話を聞いて非常に参考になった」という声が数多く聞かれました。46期生の体験談を参考に、自分の勉強方法を見直して、新年度に向けた勉強にしっかりと取り組みましょう。

4 6期生 大学入試で健闘 —全容判明は3月末—

今春入試において46期生は最後まで粘りを見せて健闘し、数多くの生徒が栄冠を手にかけています。

現在までのところ、九州大や首都大東京、広島大、早稲田大、立教大などの国・公・私立大学に多数合格しています。

しかし、涙を吞んだ46期生も少なくありません。新2・3年の君たちが来年、再来年合格を勝ち取るには、学力向上のための地道な努力が必要です。

国公立大後期日程の合格発表は23日まで。その後、大学によっては追加合格や2次募集が行われるため、国公立大学合格の全容が判明するのは3月末になります。46期生の合格状況は4月発行の『進路指導室だより(第60号)』や『進路詳報』でお伝えします。

春休みの学習計画を立てよう —新2・3年生—

学年末の成績や1、2月の模試結果からこの1年間を振り返り、春休みに取り組む具体的な学習内容をしっかり確認し、春休みの学習計画を立てましょう。そして、46期生に続くように、大きな目標に向かって、気持ちよく新学期を迎えてください。

努力は道を拓く —46期生の合格体験記続々と—

進路指導部では『平成22年度 進路の手引き』作成のため、46期生と保護者に合格体験記の執筆を依頼しました。すでに進路指導室に寄せられた体験記の中から3編を抜粋して紹介します。

『大学受験を終えて』

九州大学工学部エネルギー科合格

一年生の頃は、学校になれるのが大変だった。いきなり島から鹿児島の高校に入ったので人の多さに圧倒され、不安だった。二年の頃は、徐々に慣れてきたので成績もだんだん伸びてきた。しかし受験のことは余り頭になく、学校の試験でいい成績を残すことだけを考えていたように思う。三年前半でもただだと勉強していた。この頃に勉強しておけば良かったと、センター試験が終わって二次対策が始まった頃に強く感じた。自分はほとんどセンターの勉強しかしておらず、二次力が全く身に付いていなかったのだ。九州大学のような二次の比率が高い大学を目指す場合は全科目一つの参考書に絞って通っていった方がよい。英語では学校とは別の単語帳一冊、数学はⅢ・C中心のもの、理科は重要問題集などをやっておけば良いと思う。三年後半からはセンター対策が始まる。この時期には授業でセンター対策をして下さるので、学校で与えられたものをしっかりこなしていけば力はつくと思う。

受験勉強をしていて大事だと思ったのは、授業を大切にすることだ。夜遅くまで眠い中で勉強して学校で寝るよりも、早く寝て授業で集中した方が絶対成績が伸びると思う。なぜなら、自分で書いて覚えるよりも先生の書くこと、おっしゃることを聞いた方が覚えがいいからだ。また、いつも授業に集中できるようにしておくと、試験の時にも集中して臨める。

私は数学が苦手だったが、他の科目でカバーできた。あきらめずにがんばってほしい。後輩の皆さんも受験勉強では辛いと思うことがあるだろうが、そんな時も意志を強く持ってやれば乗り越えられると思う。

『あきらめない気持ち』

熊本大学文部歴史学科合格

高校三年間の集大成である大学受験がやっと終わりました。

一年生の頃は鹿児島から出たくないという思いがありましたが、歴史を詳しく勉強したいと思うようになり、熊本大学の歴史学科を志望するようになりました。志望校が決まってからは、毎日欠かさず学習室に通い、その日の復習や次の日の予習をするようにしました。三年生になり、自分なりに勉学に励んでいましたが、校外模試は思うような結果が出ず、何度も落ち込みました。そのたびに先生方が親身になって相談に乗ってくださったり、クラスメイトが励ましてくれたりしました。先生の「スランプは、頑張った人にしか来ないんだよ。今のままで大丈夫。」という言葉は、くじけそうになる私を後押ししてくれました。

そんな中で臨んだセンター試験の結果は、D判定という厳しいものでした。しかし、合格したいという強い気持ちがあったので、二次試験で挽回しようと、ますます意欲的に学習に取り組みました。対策として、新聞や本を読んだり、単語を確認したり、また他学年の先生方からも指導して頂きました。

受験生活を振り返って今思うことは、諦めないと言うことの大切さです。判定がどんなに悪くても、志望校に絶対合格するんだという気持ちで、諦めずに努力すれば、絶対に、最後には良い結果が待っていると信じています。後輩の皆さん、諦めずに頑張ってください。そして最後に、両親や姉、伯母たち、家族の支えにも本当に感謝しています。ありがとうございました。

『親の役割』

鹿児島大学理学部地球環境学科合格 新 拓也さんの父

大学受験を目指す子どもに対して、親がしてやれることは何でしょうか？

私は、子どもの高校入学に際し、まずは高校生活自体が楽しいものになって欲しいと願いました。二度と返らない高校時代が、思い出深いものになって欲しい。そのために、私は自分の学生時代の楽しかった思い出を話し、彼の趣味である釣りを、学業と両立して欲しいものだと思います。そして高校時代の友は、将来も大切な存在になっていくことを話しました。また、私の学生時代の失敗談を話し、失敗した経験は、今後人生を生き抜く強い原動力になっていくことや、失敗を恐れず挑戦することの大切さ、同じ失敗を何回も繰り返さない賢さなどについて話しました。受験に関しては、一年生・二年生の内に、将来の夢と一緒に話し、目標を定める手助けをしてやる必要があると思います。最初はおぼろげだった夢の形が、話し続ける内に、また彼の成長と共に、はっきりと鮮明な形になって来たように思います。

三年になってからは、夢を実現するための職種は何なのか、どの会社なのか、そのためにはどの学校・学部・学科なのかと、子どもと一緒に目指すべき目標を具体的に考え、時には意見をぶつけ合うこともありました。更に進路志望調査が始まる時期までに目標の会社を実際に訪問し、担当者の話を聞き、目標に間違いのないことを確認しました。その結果、目指すべき大学・学部・学科をはっきりと見据えることができたように思います。

彼はこの三年間、親も驚くほどの「釣りバカ」ぶりを発揮し、高校生活を謳歌できたのではないかと思っています。また、人生の友と言える友人にも出会えたようにも思います。たぶん彼にとっては、とても楽しい高校生活を送れたのではないかと感じています。また、実際に会社を訪問したことで、受験勉強に拍車がかかったことは幸いでした。

彼にとって大学合格は、夢実現のためのスタートラインに過ぎず、もう既にスタートしているものと期待しています。親として、彼が目標を見失わないように、これからはしっかりと見守っていこうと思っています。